



# 図書だより6月号

2018年6月発行  
睦合中学校 学校図書館  
学校司書 川瀬

梅雨の季節に入ることを「入梅」(にゅうばい)といい、これ以後1か月間は雨の多い日が続きます。「梅雨」という言葉は、ちょうど梅の実が熟すころ雨が降ることからつけられたものと言われています。梅雨入りして雨が続く日は、部屋でじっくり読書をしてみてはいかがでしょうか？

今月の展示テーマ「6月1日は気象記念日」にちなみ、気象に関する本を集めました。ぜひ、学校図書館に来てください。

## <6月の展示テーマから>



### 『気象予報士・予報官になるには』 金子大輔／ペリかん社

天気は私たちの日常生活と切りはなせないもの。また、台風、豪雨、猛暑、竜巻といった気象現象は、私たちの生活や生命を脅かす存在でもあります。予報の仕事は、テレビでおなじみの気象キャスターのほか、気象庁の職員や気象会社の社員、自衛官などがあります。そんな気象にかかわって働く、さまざまな職業の世界を紹介します。

## 朝読&うちどく オススメの本



### 『オール1の落ちこぼれ、教師になる』 宮本延春／角川文庫

中学校の通知表は「オール1」。中3の時の学力は、漢字は名前しか書けず、英語の単語は知っているのがBOOKだけ。数学の九九は2の段までしか言えない落ちこぼれが編み出した「オール1」からの勉強法。いじめ、ひきこもりのどん底からアインシュタインのビデオに触発されて一念発起。中卒で働きながら猛勉強して超難関の国立大学に合格し、教師になるまでの涙と感動の実話です。

### 『モモ』 ミヒヤエル・エンデ／岩波少年文庫

町はずれの円形劇場あとに迷いこんだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話を聞いてもらおうと、幸福な気持ちになるのです。そこへ「時間どろぼう」の男たちの魔の手が忍び寄り…。盗まれた時間を人間に取り戻してくれた女の子の不思議な物語です。



# つぎに何読む？

～つながる読書～

## 『夏の庭 The Friends』

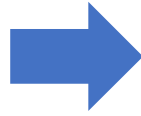
湯本香樹実／新潮文庫

町はずれに暮らすひとりの老人を、ぼくらは観察し始めた。いつしかおじいさんとの関係は、不思議な友情に変わっていく。夏の終わりに、おじいさんの庭に残ったものとは…？

3人の少年と老人のかけがえのない夏を描いた物語です。



同じ作者



姉妹編

## 『ポプラの秋』

湯本香樹実／新潮文庫

父を亡くした小1の千秋は、アパートの大家のおばあさんが「あの世へ手紙を運ぶ」と言うので、何通も父への手紙を書いておばあさんに託した。18年後の秋、おばあさんのお葬式には大勢の人たちが集まって…。『夏の庭』が少年の成長物語なら、『ポプラの秋』は少女の成長物語と言えるでしょう。セットで読むことをおすすめします。



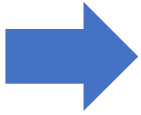
## 『羊と鋼の森』

宮下奈都／文藝春秋

「ピアノの蓋を開けると、森の匂いがした。」主人公・外村が初めてピアノ調律師の板鳥に出会った時の感想だ。外村はピアノに魅せられた。山育ちの青年が迷いもがき努力し、調律師として成長していく物語。2016年本屋大賞受賞。2018年6月に映画が公開されます。



同じ作者



エッセイ

## 『神さまたちの遊ぶ庭』

宮下奈都／光文社

『羊と鋼の森』の著者・宮下奈都のエッセイ。北海道トムラウシへ山村留学することになった福井県在住の宮下一家の1年間の生活日記。北海道の美しく豊かな自然の中、小中学生徒合わせて15名の小さな学校での体験や、温かな人々とのふれあいと、たくましい宮下家のこどもたちの成長が描かれています。



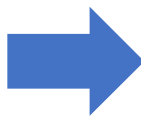
## 『隠れ家 アンネ・フランクと過ごした少年』

シャロン・ドガー／岩崎書店

「ぼくは確かに生きていた。ペーター・ファン・ペルスとして。」世界的ベストセラー『アンネの日記』の登場人物であるペーターの視点から、“隠れ家”での生活と強制収容所での日々を語る小説です。



歴史的  
背景を知る



## 『アンネ・フランク』

アン・クレイマー／BL出版

幼い頃のアンネの写真や、学校や普通の生活ぶり、戦争でユダヤ人が迫害され、家族で住んだ隠れ家の様子がわかります。その後、送られた強制収容所や、『アンネの日記』が出版されたいきさつなど、写真を交え記されています。

